

Jr.グローブマッチ大会規定

2023年11月27日一部改定

第1条 大会目的

この大会は、「格闘技をもっと好きになる」をビジョンに掲げ、初級・中級ジュニア選手の育成を目的として、運営する。

第2条 出場資格

グローブマッチに出場できるのは、以下5つの条件をすべて満たす者とする。

- 【1】心身ともに健康である**幼児・小学生の男女※中学生以上は出場できません**
- 【2】グローブでの試合経験ある者か、グローブ練習をしている者
- 【3】ジム代表者と保護者の同意を得た者
- 【4】他のアマチュア大会で**チャンピオンベルトを巻いた実績がなく、当大会で3回以上の優勝実績がない者**
- 【5】当大会の目的とルールを理解し、遵守する者。

第3条 階級・対戦形式

1.階級の分け方

階級は、以下の計算式による階級ポイントによって決める。

[体重(kg)] + [学年×4] + [性別(女子選手の場合は-2)] + [格闘技実績]

【1】階級ポイントの計算式の例

28kg、小学校2年生、女子、格闘技実績「試合経験アリ」「1勝したことアリ」の場合
(28.4) + (2 × 4) + (-2) + (2) = 36.4、バンタム級となる

【2】体重の小数点第1位までとする。

【3】学年は、未就学児童を「0」とする。

【4】格闘技実績は

0：「アマチュア大会・初出場」の場合

1：「アマチュア試合経験アリ」「勝ったことナシ」の場合

2：「アマチュア試合経験アリ」「1勝したことアリ」の場合

3：「アマチュア試合経験アリ」「2勝以上」の場合

2.階級

階級は基本的に、以下の7階級とする。出場人数が多い場合は、1階級を2つのトーナメントに分けることがある。

-20	ミニムム級	-30	フライ級	-40	バンタム級	-50	フェザー級
-60	ライト級	-70	ウェルター級	+70	ミドル級		

3.体重

申し込み時点での体重を小数点第1位まで量り、申請する。基本的に減量はしないものとする。

子どもの成長と初級・中級選手向けの大会であることを考慮し、試合当日の計量体重が、申請体重を一定の範囲でオーバーすることは認めるが、許容範囲を大きく超える場合は、グローブハンデを与える。

4.女子選手

男子選手、女子選手関係なく、合同で試合を行う。

5.対戦形式

- 【1】各階級において、出場選手が2人の場合はワンマッチ、3人の場合は総当り戦(リーグ戦)、4人以上の場合はトーナメント戦とする。
- 【2】出場人数が少ない場合は2つの階級を合同にする事がある。その場合、階級が下の選手のジム代表者に連絡し、事前に承諾を得ることとする。
- 【3】同じ階級に対戦相手がいない場合、試合ができないこともある。
- 【4】出場人数の多い階級については、トーナメントを2つに分けることがある。
- 【5】出場選手の状況に応じて、ミドル級(70kg以上)の上に、ヘビー級を増設することがある。

6.試合の組み合わせ

試合の組み合わせは、階級ポイントとこれまでの実績を参考に、主催者が決定する。希望や変更は受け付けない。

7.表彰

- 【1】出場選手が2～3人の階級は、1名(優勝)を表彰する。
- 【2】出場選手が4～7人の階級は、2名(優勝・準優勝)を表彰する。
- 【3】出場選手が8人以上の場合は、4名(優勝・準優勝・3位2人)を表彰する。※三位決定戦を行わない

8.敗者復活の権利

トーナメントで勝利した選手が次の試合を棄権する場合は、負けた選手に次の試合への出場権が与えられる。ただし、反則負けとなった選手はこの限りではなく、次の試合への出場権は与えられない。またドクターチェックを受けて、ダメージが大きいと判断された場合も出場権は与えられない。

第4条 競技用具

1.服装

上半身Tシャツ、下半身はキック用トランクス、スパッツ、空手衣を着用する。
ポケットのついたシャツ、ズボンは、怪我につながる可能性があるため不可とする。

2.グローブ

選手は、**主催者が用意した**グローブを着用する。
フェザー級以下は「8oz」、ライト級以上「12oz」とする。

3.スネパッド

選手は、**自分で用意した**スネパッドを着用する。
フェザー級以下の選手は、布製のスネパッドとする。
ライト級以上の選手は、布製ではなく、合成皮革や本革のスネパッドとする。

4.ヒザパッド

選手は、**自分で用意した**ヒザパッドを着用する。

5.ヘッドギア

選手は、**自分で用意した**ヘッドギアを着用する。
フェザー級以下の選手は、前面ガード付きのヘッドギアとする。
ライト級以上の選手は、前面ガードのない、一般用のヘッドギアとする。
ただし、ライト級以上の女子選手は、前面ガード付きのヘッドギアも認める。

6.マウスピース

選手は、**自分で用意した**マウスピースを着用する。

7.ファールカップ・アブスメントガード

男子選手は、**自分で用意した**ファールカップを着用する。

女子選手は、**自分で用意した**アブスメントガードをできる限り着用する。

第5条 レフリー・ジャッジ

- 【1】審判員は、レフリー 1 名、ジャッジ 3 名とする。
- 【2】試合の判定は、ジャッジ 3 名が行い、旗によって示す。
- 【3】審判員は、シュートボクシング、もしくはキックボクシングのプロ選手かプロ経験者で行う。
- 【4】選手、所属ジムの関係者は、審判員の判定に対して異議申し立てをすることはできない。
- 【5】試合の公正を図るためレフリー・ジャッジとは別に本部に監査役を置き、判断を仰ぐことができる。

第6条 試合

1.試合時間

- 【1】1 ラウンド制とし、1 ラウンドは 1 分 30 秒とする。
- 【2】判定が決しない場合は、1 分の延長戦を 1 回行い、勝敗を決める。決勝戦は、延長戦を 2 回行うことができる。延長戦を行う前のインターバルはナシとする。

2.判定基準

- 【1】パンチ、キックの有効打撃による総合判定する。
 - ①パンチの有効打撃
ジャブ/ストレート/フック/アッパー/ボディーブロー
 - ②キックの有効打撃
前蹴り/後蹴り/回し蹴り/後回し蹴り/横蹴り/回転蹴り/飛び蹴り/二段蹴り/膝蹴り/後飛び蹴り
- 【2】判定の優先順位は、
 - ①ダウン>②ダメージ>③クリーンヒット数>④積極性とする。
- 【3】ダウンの基準は以下の通りとする。
 - ①有効攻撃により、足の裏以外がマットについた場合。
 - ②一定の攻撃に対して、反撃ができない場合。
 - ③逃げまわり、戦う意志が見られない(戦意喪失)場合。
- 【4】ダウンポイントを 1 とする。ダウンを取られても、ダメージやクリーンヒット数において優勢だった場合は、ドローもしくは判定勝利の可能性もある。
- 【5】積極性は、「攻撃手数」「前進度合い(場外への逃げ)」「身体の状態(バランス)」を総合的に判断する。

3.KO・TKO

- 【1】ダウンし、10 カウント以内に立ち上がりファイティングポーズができない場合は、KO の判定を下す。
- 【2】ダウンし、ファイティングポーズをとっても、ダメージが大きいと判断した場合は、TKO の判定を下す。
- 【3】同じラウンドにおいて、2 回のダウンがあった場合は、TKO の判定を下す。

【4】有効打撃により、鼻血など出血が止まらない場合は、TKO の判定を下す。

【5】両選手の実力差が歴然たる場合は、レフリーの判断により、TKO の判定を下す。

4.反則

【1】反則行為が 2 回続いた場合は、レフリーの判断により減点 1 とする。

【2】悪質な反則行為は、レフリーの判断により 1 回目で減点や反則負けとする。

【3】反則行為は、1 試合を通して積み重なるものとする。

【4】以下を反則とする。

バックブロー	すべての投げ技	首相撲	サバ折り
相手をつかむ行為	相手を掴んでの攻撃	蹴り足をキャッチしての攻撃	
倒れた相手への攻撃	寝技	関節技	頭突き
サミング	ヒジによる攻撃	顔面へのヒザ攻撃	金的への攻撃
相手を侮辱する行為(セコンドや応援者も含む)	相手に対して故意に怪我をさせる行為		
故意にコートの外に逃げる行為			

5.失格

【1】レフリーが、悪質な試合態度と判断した場合。

【2】レフリーの指示に従わない場合。

【3】出場時間に遅れて出場不可能な場合。

6.その他

ルールに記載されていない事態が発生した場合は、レフリーと監査役が審議し判断する。

階級ごとの防具と試合時間 一覧

階級	ミニマム級 幼年程度	フライ級 小1程度	バンタム級 小2程度	フェザー級 小3程度
ポイント	-20	-30	-40	-50
試合時間	1分30秒			
グローブ	8oz			
スネパッド	布製			
ヒザパッド	布製・ポリエステルなど			
ヘッドギア	ガード付			

階級	ライト級 小4程度	ウェルター級 小5程度	ミドル級 小6程度
ポイント	-60	-70	+70
試合時間	1分30秒		
グローブ	12oz		
スネパッド	合成皮革・本革		
ヒザパッド	布製・ポリエステルなど		
ヘッドギア	ガードなし一般用		

※女子選手は階級に関わらず、希望により「前面ガード付きのヘッドギア」を着用できる。